

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 花ノ木 花ノ木こども発達支援センター 児童発達支援 おひさま			
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日		～	R8年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	87名	(回答者数)	65名
○従業者評価実施期間	R7年 12月 8日		～	R7年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園の療育形態をとることで、子どもの特性や成長、家庭や園での出来事などを丁寧に共有しながら、活動の設定、見直しなどを進めていくことができている。	保護者同士の交流会、学習会、家族支援プログラムなど、親子通園であるからこそ行いやすい活動を積極的に取り入れ、関係強化、情報提供などを年間を通して定期的に行った。 また、活動内容を参観しやすいよう環境面を配慮したり、少しの時間でも子どもの様子を保護者と共有できるよう意識している。クラスごとの担当にすることで、保護者が相談しやすい体制を作っている。	多様化する保護者のニーズに応じられるよう、学習会や家族支援プログラムの開催形態の見直し、新しいプログラムの模索を適宜行っている。
2	専門職とも連携を取りながら、子どもたち一人ひとりの発達段階や認知特性への評価を丁寧に行うとともに、アセスメントと実践を結び付けながら、配慮や支援を行っている。	職員一人ひとりの知識とスキルの継続的な向上を目指し、定期的に所内研修、事例検討の機会を設けている。また、年に数回スーパーバイズを受けることにより、考え方や視点が固定化しないよう工夫をしている。	所内研修、事例検討を継続するとともに、外部研修、学会などにも積極的に参加、発表の機会を持てるよう努め、エビデンスに基づく支援や介入のための知識、スキルの獲得を進めていきます。
3	園や就学先との連携会議や連絡会といった関係機関連携を必要に応じて開催し、情報共有を丁寧に行っている。また、そこで得られた情報を参考に子どもの適応行動獲得につながる課題や活動をおひさまでも設定するなど、連携内容を療育内にも還元している。	保護者のニーズ以外にも、保護者とのコミュニケーションを取る中で必要性を感じれば、連絡会の提案を行っている。	引き続き、丁寧なガイダンスを行いながら、必要に応じて関係機関との連携を重ねていきたいと考えている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルの説明や事業所内での避難・防災訓練などの周知に不十分さがあるなど、透明性の確保が今後の課題である。	従来のおたより、張り紙といった対応だけでは、事業所での確認忘れ、家庭での確認の難しさといったアナログ由来の問題が一因としてあると考えられる。	契約時の説明や従来のおたより、張り紙などに加え、ホームページやSNSといったツールも合わせて活用しながら、周知を徹底していきたいと考えている。
2			
3			